

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	作業療法学分野
学籍番号	12S3008	院生氏名	岩上 さやか
通学キャンパス	小田原キャンパス		
論文題目	地域在住高齢者の生活を構成する習慣・役割作業 ー老人クラブ会員を対象とした自由記載式調査よりー		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格
<p>&lt;審査結果の要旨&gt;</p> <p>本研究は、地域に暮らす高齢者の習慣・役割活動の実態を把握し、属性データとの関連からその特性を検証する調査研究である。研究者は、回復期病棟の入院患者への作業療法の経験と副論文の研究から、価値ある作業への復帰の援助が患者の退院を促進し、その後の生活もより豊かにすると考えるに至り、患者の病前生活における習慣や役割を見出す重要性を認識した。これが本研究の端緒である。</p> <p>対象は地域に在住する老人クラブ会員 217 名 (男性 109 名、女性 108 名、平均年齢 73.1±4.15 歳) で、対象者本人が自身の生活を思い浮かべながら、習慣・役割と考えている作業 (目的的活動) を自分の言葉でアンケートに記入した。得られた活動 400 種は、中項目 81、大項目 32 に分類された。</p> <p>中項目 81 の実施の有無と属性データとの関連は、クロス集計を用いて <math>\chi^2</math> 検定、Fisher の直接法により検討した。また、前期高齢者 (65~74 歳) 128 名と後期高齢者 (75 歳以上) 81 名の 2 群における習慣・役割作業の特性を、他の基本属性と関連づけて比較した。さらに、実施している作業項目から対象者の特徴を探るため、Ward 法による階層的クラスター分析が行われた。</p> <p>結果、女性では家事など毎日行う家庭内の活動が、男性では地域の役割活動が多い傾向が示された。家事に対して趣味的活動に多く参加するかどうかは、同居家族の要因と関連していた。前期および後期高齢者を比較すると、女性では前期群の家事活動に後期群で趣味や友人との活動が加わり、特徴的な作業が増加したが、男性では前期群に特徴的な地域活動に関する作業 7 種類が後期群では自治会活動 1 種類に減少し、年齢と共に役割活動の減少する傾向が認められた。クラスター分析では、①地域活動と家事を両立する群、②生活全般の管理をする群、③家事の一部を手伝う群、④趣味等好きなことをする群、⑤好きなことと地域貢献活動をする群の、5 クラスターが得られたが、①②で全対象者の 90%以上を占めていた。本研究の成果はまた、作業療法士が対象者の習慣・役割活動を聴取するのに利用できる面接の手引きとしてまとめられた。</p> <p>本研究は本学倫理審査委員会より承認を得て行われ、論証及び論文形式も適切である。本研究の新規性は、地域在住の高齢者に自らの言葉で習慣・役割活動を記載してもらい、その内容を分析した点にある。研究の成果は、障害のある高齢者の地域生活移行支援のみならず、健常高齢者あるいは特定高齢者の介護予防の計画立案に有用な情報を提供すると推測される。</p> <p>2014 年 12 月 2 日に口頭発表と共に口頭試問を実施し、研究の背景や結果に関する質問に適切に回答した。審査員より、①内容に合致する題目への変更、②目的・計画・分析の一貫性を示す説明の付加、③対象者と日本の高齢者の状況比較により結果の一般化可能性明示、④データ分析の追加試行が求められた。2015 年 1 月 6 日に再提出された論文では、適切に修正がなされていた。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士 (保健医療学) の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 小賀野 操</p> <p>副 査 赤居 正美</p> <p>副 査 只浦 寛子</p>		